

新型コロナウイルス感染症から考えてみよう!

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐために出されていた緊急事態宣言は5月25日に全面解除され、各企業が活動再開に向けて動きだしています。しかし、再び流行が拡大し、第2波の到来も懸念されている中、不安や偏見により、感染者やその家族等への不当な差別やいじめ、SNS等での誹謗中傷といった人権侵害が起きています。

私たちは、目に見えないウイルスや経験したことのない感染症を正しく理解せず不安やおそれを感じ、遠ざけたいという心理から、感染症に関わる人を不必要に嫌がったり避けようとするなど、差別的な言動をとってしまうことはありませんか？
これは同和問題(部落差別)をはじめとするあらゆる人権問題についても同じことが言えるのではないのでしょうか？

意識を変えるワンステップ

差別には、正しく知らないことから起こる偏見や思い込みから、「避けたい」「かわりたくない」という忌避意識・差別意識がはたらいていることがうかがえます。

また、「同和問題は他人事」としていることも、差別行為が起きている原因です。差別は、している人がいるから起こっています。それは、「される側の問題」ではなく、「している側の問題」であるということです。また、自分自身が差別される側になったとき、どんな気持ちになるでしょう。辛さや憤りを感じるのではないのでしょうか。同和問題は、他人事ではなく、私たち自身の問題です。

同和問題(部落差別)ってまだあるの？

今も、結婚差別や就職差別につながる身元調査や、家土地の購入や引っ越しの際に行う問い合わせ、差別はがきの送付・差別落書きなど、様々な差別行為が起きています。最近特に、インターネット上での差別を助長する表現や他人を誹謗中傷する内容の書き込みが、たくさん存在しています。「同和問題」を正しく知らない人がその書き込みを見たとき、それは間違っていると判断できるのでしょうか。差別行為につながるかもしれません。

今日からできること

正しく知るために、他人からの情報をうのみにしないで、自分自身で知る行動をとることが大切です。さぬき市が作成している啓発パンフレットを見たり、講演会に参加したりする方法があります。市の「人権出前講座」を活用する方法もあります。

また、香川県では8月を「同和問題啓発強調月間」と定め、差別をなくす取り組みを行っています。この機会に、「自分にとって同和問題とはなんだろう。自分はどうかわっているだろう。どうかかわってほしいのだから。」と、一度、考えてみてください。そうすることで、自分の問題としてかわることができ、差別をなくすことにつながっていきます。

身の回りには、同和問題をはじめ新型コロナウイルス感染症等を含む様々な人権問題が存在しています。それらの問題に気づき、正しく知って、お互いを思い合っって行動しましょう。

「同和問題」とは、従来の同和地区と呼ばれた地域の出身であることやその地域とかわりがある、またかわりがあると見なされることで、根拠もなく著しく不合理な差別を受けるといふ社会問題です。これは、日本固有の人権問題であり、日本国憲法によって保障された基本的人権が完全に保障されていないという重大な社会問題です。



【問】人権推進課 ☎(087)894・9088

自分らしくいきまよ

男女共同参画週間 パネル展開催

国の男女共同参画週間にあわせ、市では毎年パネル展を開催しています。

6月20日から27日まで本庁舎で行われた今回は、市民から寄せられた男女共同参画にまつわる作品約100点をはじめ、市民団体の活動報告などが展示され、200名以上が来場しました。

来場者からは、「時代が変わり、男女共同参画が進んだと感じる」「互いの違いを理解し他者と接したい」といった感想が寄せられました。



ご応募ありがとうございました! 作品コンテスト(川柳・俳句)

『みんなが暮らしやすい社会』の実現を目指し、日常にある「あたりまえ」について考えてもらおうと「家事」をテーマに、作品を募集したところ、77点の応募がありました。

【市長賞】田村 節子さん「性別のハードル飛んで 家事をする」
【会長賞】二宮 佐智子さん「『洗います』嫁の一言 息子立つ」



▲小・中学生部門の受賞者とともに



【問】男女共同参画・国際交流推進室 ☎(087)894-1660

